



子どもの「困った」に気付くと  
見えてくるもの

学校・家庭・地域をつなぎ、  
育ちを叶えるヒント

特定非営利活動法人laule' a  
副理事長 大郷和成

令和7年度鎌倉市共生のまちづくり講座



だいごう かずなり  
**大郷 和成 作業療法士**

児童発達支援・放課後等デイサービス

**遊びリパーク Lino' a (リノア) 代表**

NPO法人 laule' a 副理事長

NPO法人 nico' s company 理事

社会作業療法士協会 理事

藤沢市放課後支援事業者連絡会 代表

藤沢市子ども発達支援支援連絡会 委員



## 通所サービス

児童発達支援

放課後等デイサービス

生活介護

日中一時支援

## 訪問サービス

保育所等訪問支援

居宅訪問型児童発達支援

移動支援

## 外部サービス

インクルーシブ移動遊園地

出張遊び場づくり

助成金事業

## 遊びリパーク リノア (辻堂)

Since 2015



海の近くに面し、辻堂海浜公園や海辺に車いすやバギーのまま散歩に出られます。広い室内では大型の遊具を広げてダイナミックな集団遊びができます。

〒251-0046  
藤沢市辻堂西海岸2-10-3-1  
TEL 0466-86-7120



放課後等デイサービス

児童発達支援

## 遊びリパーク リノア 茅ヶ崎

Since 2023



ワクワク!ドキドキ!心が沢山動く活動やイベントを通じて、子ども達はもちろんスタッフやご家族も一緒に「嬉しい!楽しい!」を感じながら過ごしています。

〒253-0071  
茅ヶ崎市萩園1604  
TEL 0467-85-1831



放課後等デイサービス

児童発達支援

## 遊びリパーク リノアたまプラ

Since 2021



子どもも大人も、障がいがあってもなくても、みんなで一緒にココロとカラダをたくさん動かそう! スペシャルニーズに寄り添った「あそび」が待っています!

〒225-0003  
横浜市青葉区新石川4-1-12  
たまプラザ公園ハイツ105号室  
TEL 045-482-9350



放課後等デイサービス

児童発達支援

## PLAY WORKS リノア

Since 2024



スーパーや公園が近く利便性の高い住宅街にあります。車いすでお店に商品を届けたり、買い物に出かけたり、仕事も遊びも楽しんでいます。

〒251-0056  
藤沢市羽鳥1-1-60  
ブランシエール湘南辻堂内  
TEL 0466-52-5596



生活介護

## 遊びリパーク リノアおおば

Since 2021



緑に囲まれた地域で、目の前には田んぼと広い空が広がっています。敷地内にあるリノアパークで遊んだり創作活動をしたりワクワク楽しい時間を過ごしています!

〒251-0861  
藤沢市大庭601  
TEL 0466-53-9607



放課後等デイサービス

児童発達支援

### ◆絵本について

リノアの取り組みや在り方を、多くの方に理解していただけるよう作成しました。ウェブサイト(右記二次元コード)からご覧いただけます。



### ◆スタッフやボランティアについて

作業療法士、理学療法士、保育士、看護師などの専門職の他、多才なスタッフ、ボランティア、そしてスタッフの子どもたちが共に活動しています。一緒に楽しい時間を過ごしたい! という方はいつでもお問い合わせください。

## みんなのあそびば

# リノアパーク

みんなが安心して楽しく遊べるインクルーシブ公園です。こころ動くカラフルな遊具たちが待っています!



そのほか、車いすごと乗れる回転盤や一人乗りブランコなど8種類の遊具があります。駐車場あり。  
(アクセス) 神奈川県藤沢市大庭 601 (リノア大庭に併設)

外でもOK!

## あそびにおいでよ!

外で思いっきり遊ぶ? お部屋の中でじっくり遊ぶ? 気分に合わせて選んで下さいね

中でもOK!



いつもと違うおもちゃや遊具にわくわく! 親子で一緒に楽しもう!

親子で自由に遊べるサロンです。保育士やセラピストがいるので、お子さんの発達など気になる事も相談できます。

リノア茅ヶ崎内(茅ヶ崎市萩園1604)にあるので、遊びに来る日が決まったら、DM・メール・電話のいずれかでお知らせ下さい。駐車場あり。利用される場合は併せてお伝え下さい



## リノアの親子サロン

子どもの行動の背景を探る

環境を整え、関係性を  
育み、子どもの“育ち”  
を支える



# 同じ子が、環境が変わると...

Aくん・小4の場合

学校では

- ・ 落ち着かない様子
- ・ 授業中に離席してしまう

デイでは

- ・ 集中して工作に取り組む
- ・ 1時間も夢中になる

Bさん・中2の場合

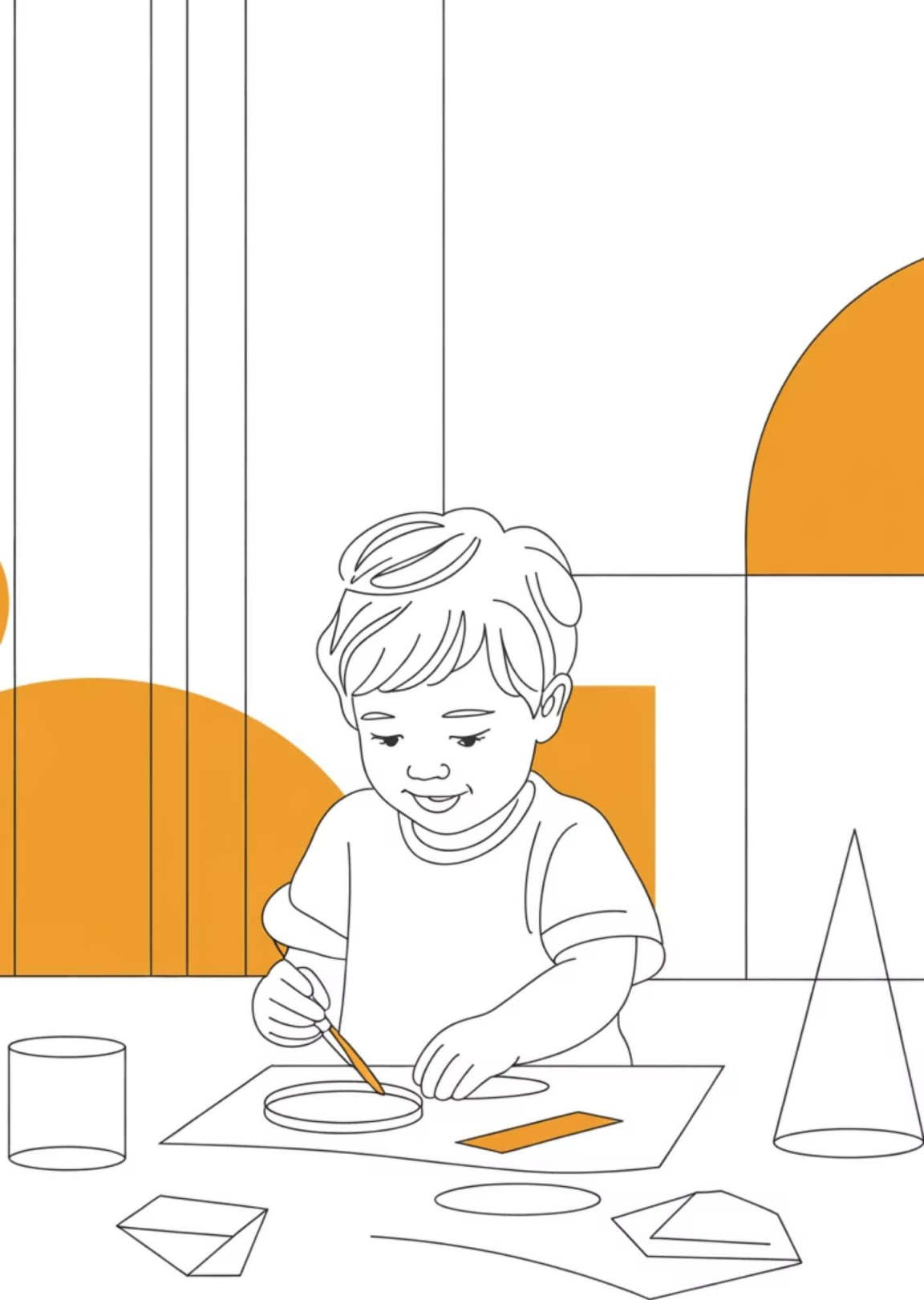
家では

- ・ 身の回りのことができる
- ・ よく話す

デイでは

- ・ 依存的になる
- ・ 自分から話すことが少ない

## 何が違うのか？





前半のテーマ

「この子の問題だね」から  
「環境の問題かも」に視点を変えていく

# 前半の内容

01

---

## 3つの視点

行動の背景を理解する枠組み

03

---

## 関係性と“育ち”のまなざし

デイ(福祉)での実践から

02

---

## 環境を整えるという発想

作業療法士の視点から

04

---

## 協働と役割分担

学校・家庭・デイ(福祉)の連携

作業療法士として大切にしていること

# 子どもを変えるのではなく環境を整える

1

そのために必要なこと

2

行動の背景を理解する

3

きっかけを把握する見方

行動の理由を理解することで、適切な支援の方向性が見えてきます。



# 行動を理解するための3つの視点（ABC分析）

行動を理解するための3つの視点をご紹介します。この枠組みは、教員も保護者も専門職も使えるものです。

## A: 何がきっかけ?

### Antecedent (先行事象)

どんな環境や状況だったか

- ・ 場所や時間帯
- ・ 周りの人や音
- ・ 直前の出来事

## B: 何が起きた?

### Behavior (行動)

具体的にどんな行動だったか

- ・ 観察できる行動
- ・ 言動や表情
- ・ 継続時間

## C: どうなった?

### Consequence (結果)

その後どんな変化があったか

- ・ 周りの反応
- ・ 本人の状態
- ・ 得られたもの

この3つを観察することで、行動の意味が見えてきます。



## Dくんの例

### A：きっかけ

学校で6時間過ごし、エネルギーが切れていた状態。集団生活で疲れきっていました。

### B：行動

動けない、固まる。言葉が出ず、その場から動こうともしませんでした。

### C：結果

静かな場所で30分過ごすことで、エネルギーが回復できました。

☐ → 「わがまま」 じゃなく 「必要な休憩」 だった

行動の背景を理解することで、見方が大きく変わります。Dくんは自分なりの方法で、必要な休憩を取っていました。

# 見えない「疲れ」を理解する

## なぜ疲れやすいのか

- ・ 感覚情報の処理に多大なエネルギーを使う
- ・ 予測できない状況への対応
- ・ 社会的な場面での気遣い
- ・ 「頑張って合わせる」ことの連続

## 必要な対応

- ・ 疲労の蓄積を予防する工夫
- ・ 回復のための時間を確保
- ・ 「休むこと」を悪いことにしない

## 疲労のサイン

動けなくなる：固まる、反応が鈍くなる

爆発的な行動：パニック、激しい拒否

離席・逃避行動：その場を離れる

無表情・無反応：感情表現が乏しくなる

3つの視点で観察すると...

きっかけ → 行動 → 結果  
のその子特有のパターンが見えてくる

● 切り替えのとき

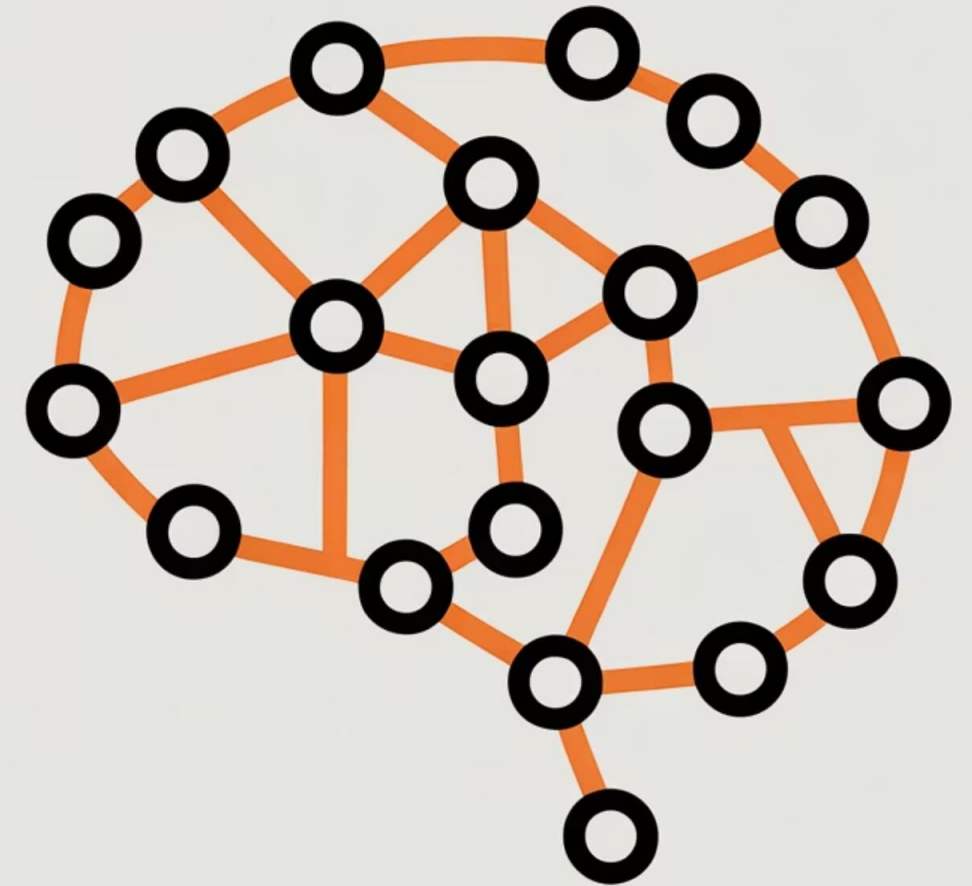
● 予定が変わったとき

● 大勢のなか

● 強い感覚刺激

● 難しい課題

● 疲れているとき



# 3つ視点で見えてくること

1

- ✕ 「この子は困った子」
- 「この子は困っている」

2

- ✕ 「わざとやっている」
- 「これしか方法知らない」

3

- ✕ 「なぜできないの?」
- 「何があればできる?」

見方を変えることで支援の方向性が大きく変わる

# 見方が変わると



## 見方が変わる

行動の背景を理解する

## 関わり方が変わる

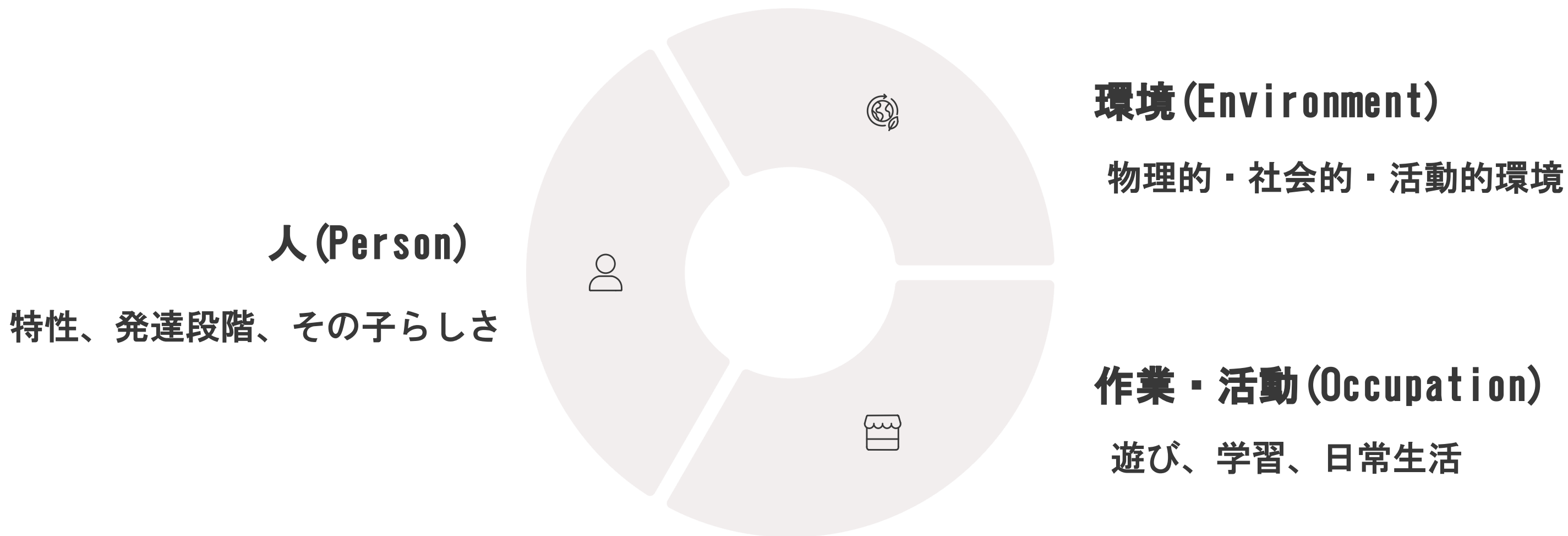
適切な支援を選択できる

## 子どもの行動が変わる

安心して過ごせる

# 作業療法の本質

作業療法では、人と環境と活動の相互作用を大切に考えます。



この3つの相互作用を調整することで、その人らしい生活を支援します

# 環境とは何か

環境は多層的な要素から成り立ち、すべてが行動の「きっかけ(A)」になり得ます。



## 時間的環境

いつ、どのくらいの時間



## 社会的環境

関係性、雰囲気、心理的安全性など



## 活動的環境

何をするか、どうやるか、詳しい内容など



## 物理的環境

音、光、配置、道具など

# 物理的環境を整える

## 照明



- ・ 蛍光灯の眩しさを軽減し、目に優しい明るさに調整します
- ・ 自然光を活用することで、落ち着いた空間を作ります

## 音環境



- ・ 反響を抑える配慮をして、音の刺激を減らします
- ・ イヤーマフなどを利用して音量を調整します

## 空間配置



- ・ 動線をシンプルにして、分かりやすい空間を作ります
- ・ パーソナルスペースを確保し、視覚的な情報を整理します

## 道具・家具



- ・ 足が床につく椅子の高さに調整します
- ・ 姿勢保持のクッションや、使いやすい道具を選定します

感覚に配慮した環境づくりが、子どもの安心と集中を支えます。





# 活動的環境を整える



## 選択できる活動

複数の選択肢を用意し、自己決定の機会を増やします。「やらない」も大切な選択肢として尊重します。子ども自身が選ぶことで、主体性と意欲が育ちます。



## 成功体験を積める活動

スモールステップで達成感を味わえるように工夫します。「ちょっと頑張ればできる」レベルを見極め、失敗しても大丈夫な設計を心がけます。



## 意味のある活動

子どもが「やりたい」と思える内容を大切にします。内発的動機を育て、遊びを重要な「作業」として位置づけます。楽しみながら学べることが理想です。

# 社会的環境を整える

## 否定しない

「ダメ」より「こっちならOK」と伝える

## 比較しない

「みんなと同じ」を求めない

## 急かさない

「早く」より「準備できた?」と声かけ

## 選択を尊重する

「やる/やらない」も選べる環境

## 失敗を許す

「間違えてもいい」という文化

## 小さな成功を喜ぶ

「できた!」を一緒に共有する

心理的安全性を育むことが、子どもの成長を支えます。

# 時間的環境を整える

時間も調整可能な「環境」です。子ども一人ひとりのリズムを尊重することで、無理なく活動に取り組めるようになります。



01

## 時間の長さ

集中できる時間は個人差が大きいものです。活動は短めに設定し、延長は本人次第にします。「もうちょっとやりたい」という気持ちで終わることが、次への意欲につながります。

02

## 時間の流れ

予測可能なスケジュールを用意し、切り替えの予告（「あと5分だよ」）をします。ルーティンで安心感を作ることで、見通しを持って行動できるようになります。

03

## タイミング

疲れている時は無理をせず休息を取り、エネルギーがある時に新しいことに挑戦します。その子のリズムを尊重することが、最も大切なことです。

# 環境が変われば子どもも変わる

1

## 環境調整前

- ・ 落ち着かない様子が続く
- ・ トラブルが頻繁に起こる
- ・ 活動に参加できない

2

## 環境調整後

- ・ 集中できる時間が増えた
- ・ トラブルが大きく減った
- ・ 自分から参加するように

□ **— 子どもが変わったのではなく、環境が「フィット」した —**

これが作業療法の発想です。困難さは子どもの中だけにあるのではなく、環境とのミスマッチから生まれているものとして捉えます。

# もう一つの大切な「環境」

物理的な環境だけでなく、もう一つとても大切な環境があります。それが「**関係性**」という環境です。

**信頼できる人がいるか**  
安心して頼れる大人の存在が、子どもの心の安定につながります。

**安心できる場所か**  
ここにいていいと思える場所が、挑戦する勇気を育てます。

**受け入れられているか**  
ありのままの自分を認めてもらえる経験が、自己肯定感を育みます。

これも重要な「**きっかけ(A)**」です。関係性が整ってなければ、どんなに物理的環境を整えても効果は限定的になります。



# 多様性の中で育つ



## デイにいる子どもたち

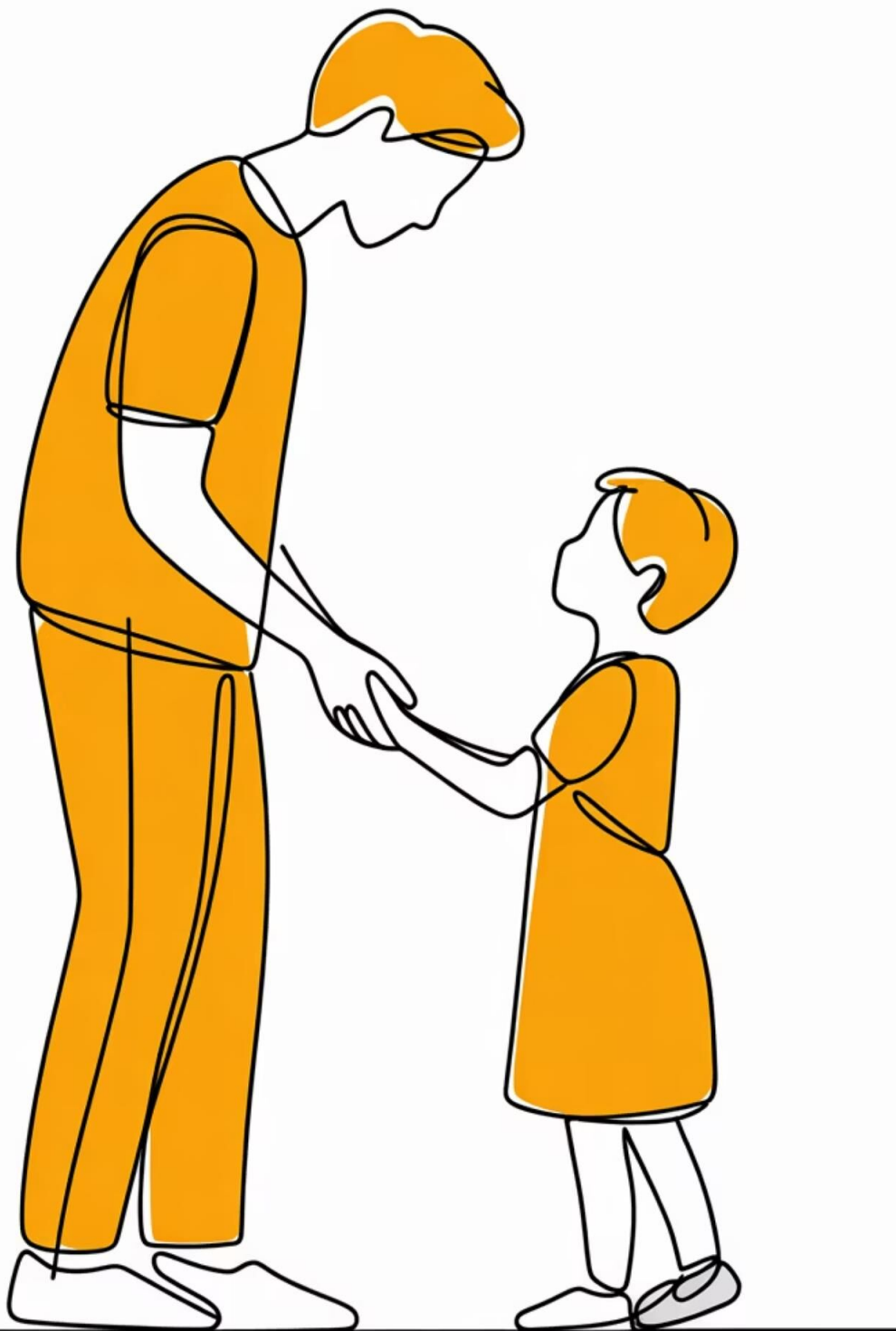
- ・ 重症心身障害児
- ・ 医療的ケア児
- ・ 自閉スペクトラム症
- ・ ADHD
- ・ 知的障害
- ・ 学習障害

## みんな違う、でも一緒

みんな違います。でも、みんな一緒に過ごします。違いを「当たり前」として受け入れ、一緒に遊び、一緒に笑います。

多様性が「文化」になっている空間では、子どもたちは自然に相手の違いを理解し、尊重することを学びます。

# 関係性が行動を変える



## Before — 初めてのデイ

- ・ 入り口で固まって動けない
- ・ 誰とも目を合わせない
- ・ 隅で一人きり

## After — 3ヶ月後

- ・ 「ただいま」と笑顔で入室
- ・ 重症児のFくんの横に座る
- ・ 優しく手を握る
- ・ 「Fくん、今日も来たね」



関係性ができることで安心できる場所になり、「ここにいていい」と思えるようになりました。

# 育ちを支えるまなざし

短期的な成果よりも、長期的な育ちを大切にする視点が重要です。

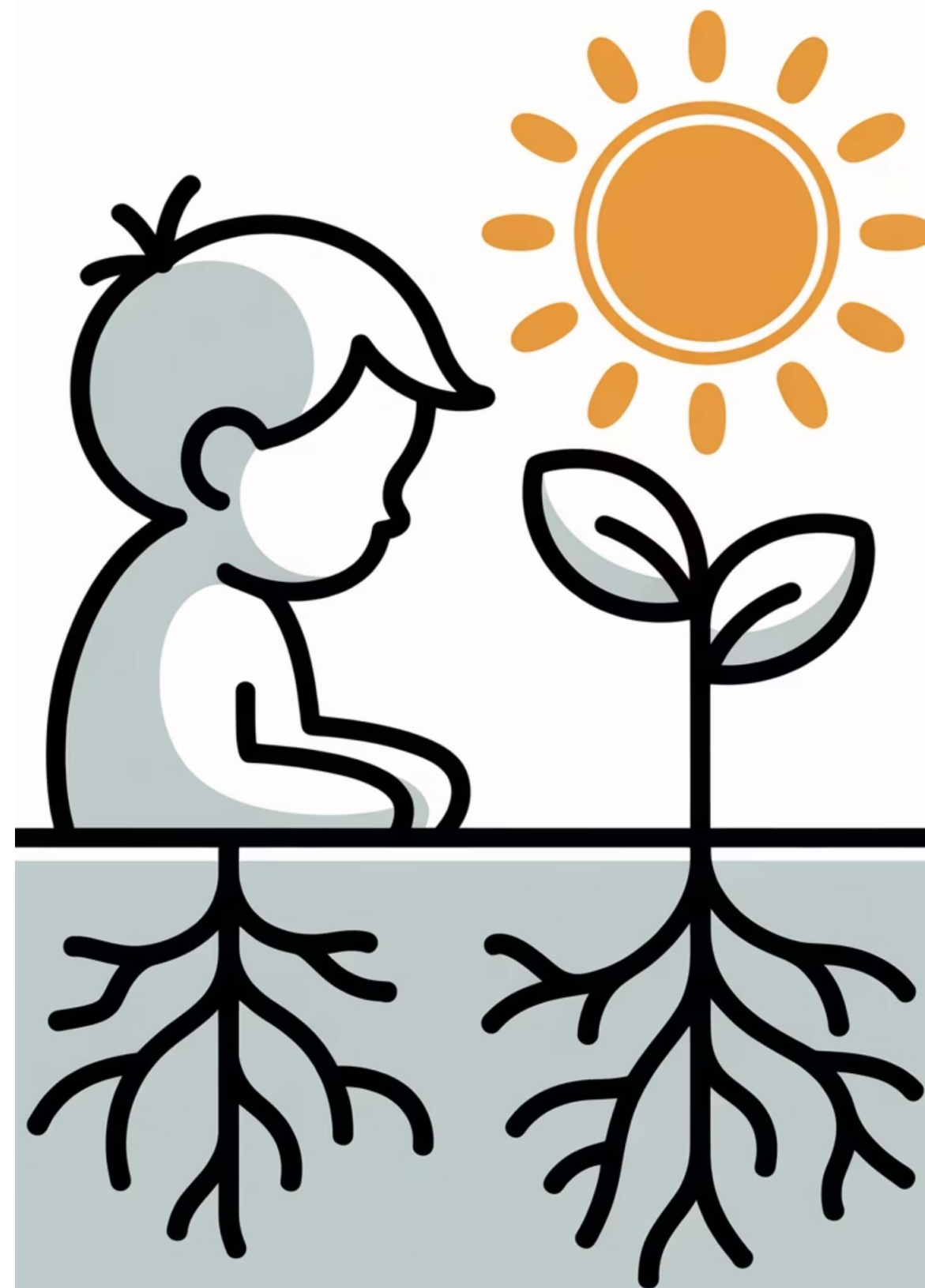
**できる/できない より**  
安心できるか、楽しいか、自分でいられるか — 心の状態を優先します。

**知識・技能の獲得 より**  
自己肯定感、人とつながる力、失敗を恐れない心 — 生きる力の土台を育みます。

**今日の課題 より**  
10年後の生き方、地域での暮らし — 長い目で見た成長を支えます。

**評価より理解、指導より伴走**

— これが育ちを支える基本姿勢です —





## それぞれの役割を理解する

### 学校

- ・ 集団での学び
- ・ 社会性の育成
- ・ 教科学習
- ・ 時間/人数の制約

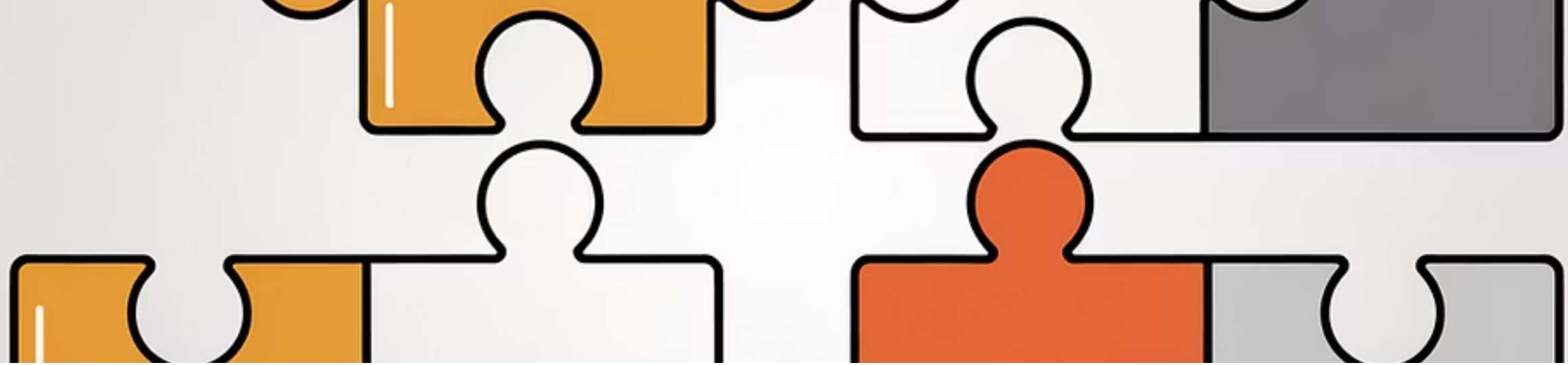
### 家庭

- ・ 安心の基地
- ・ 無条件の受容
- ・ 個別の時間
- ・ 24時間365日

### デイ（福祉）

- ・ 第3の場所
- ・ 回復とチャレンジ
- ・ 専門的視点
- ・ 地域の橋渡し

それぞれの役割を理解し、補い合うことで、子どもを多面的に支えることができます。



## 共通言語としての3つの視点（ABC分析）

### 教員より

「授業中、こういう時(A)にこうなります(B)。その後、こう対応しています(C)」

### 保護者より

「家では、こういう時(A)にこうなります(B)。その後、こう対応しています(C)」

### デイスタッフより

「デイでは、こういう時(A)にこうなります(B)。その後、こう対応しています(C)」

同じ枠組みで話せることで情報が統合され、子どもの全体像が見えやすくなります。



# 現実的に考える連携

## 可能性

### 多角的な視点

それぞれの専門性が補完し合い、子どもの全体像が見えてきます

### 役割分担

得意な領域を活かし、負担を分散できます

### 継続的な支援

情報の引き継ぎと長期的な視点が可能になります

## 現実的な課題

### 時間の確保

連携のための時間が取れない、それぞれの業務で手一杯という現実

### 情報共有の仕組み

連絡方法の統一が難しい、タイムリーな情報交換の困難

### 価値観のズレ

優先順位の違い、「育ち」の捉え方の違い

完璧な連携を目指すのではなく、「ここだけは」という共通項を見つけることが大切です。